

明連川づくりと総合学習



(株)フジタ建設コンサルタント
岸村 憲作

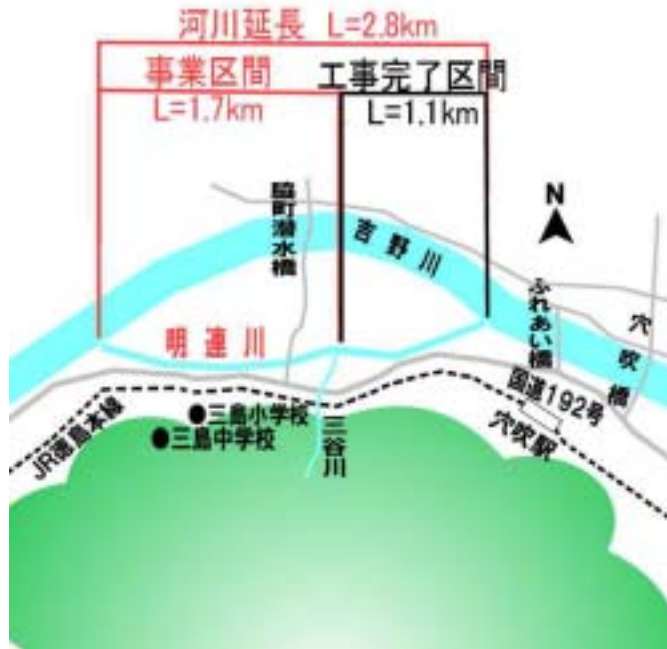
内 容

吉野川水系明連川の紹介

総合学習企画上の課題と取り組み内容

これまでの取り組みの評価と反省点

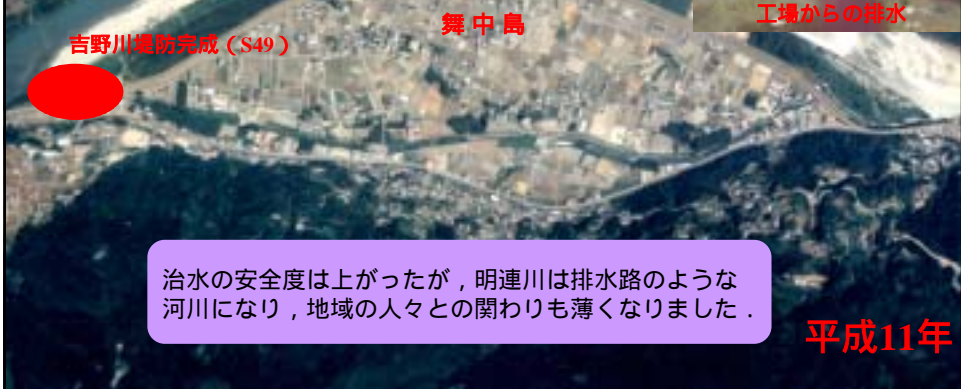
明連川の位置



洪水による被害と恩恵



地域住民に忘れ去られた明連川



明連川の計画区間



総合学習企画上の課題

総合学習の取り組みを通じて、どのように事業内容を情報発信するか？

事業に対する関心の喚起

明連川では、平成12年度から協議会方式による意見交換会を実施してきましたが、参加人数が減少傾向にありました。

平成15年度からは、意見交換会と平行して、三島中学校との総合学習に本格的に参加しています。

参加者の構成

- ・ 行政区役員
- ・ 小中学校関係者
- ・ 福祉事業者
- ・ 地元有識者
- ・ 役場関係者

過去の意見交換会の内容

平成12年度

開催回数: 4回
講評材料・雑草対策・整備手順・整備方針等について検討を行いました。



平成13年度

開催回数: 2回
学校関係者へのアンケート調査: 1回
冬増（非灌漑期10月～翌年4月）の水量の確保等について検討を行いました。



平成14年度

開催回数: 1回
これまでに明らかになった問題点・前提条件・解決策を整理し、今後の事業の進め方等について検討を行いました。



平成15年度

開催回数: 1回
上流確認試験施工区間の整備状況について確認を行い、中学校と連携した事業の進め方等について検討を行いました。



総合学習企画上の課題

総合学習と公共事業の調和をどのように図ればよいか？

総合学習の目的

知識を教え込む授業ではなく、

- 1) 自ら学び、自ら考える力の育成
- 2) 学び方や調べ方を身に付けること

河川事業の工程

整備方針・整備イメージ

概略設計

意見交換会の承認

実施設計

工事発注



三島小中学校との連携

平成12年度

意見交換会の委員に、学校関係者（校長先生・担当教諭・PTA会長）を迎え事業を開始。子供たちの要望は、担当教諭を通じて集めました。

平成13年度



豊水実験の現場見学会

平成14年度



ビオトープ学習会

平成15年度



模型を使った概略計画



植樹班による植樹風景

総合学習企画上の課題

自分達が考えたキャッチフレーズや整備イメージが、具体的な計画になっていく過程をどのように見てもらうか？

1学期（全6回）

総合学習

キャッチフレーズフレーズ
整備イメージ

夏休み

ブラックボックス

夏休み明け

整備計画案の完成



調べ学習を軸に授業を構成しました

計画づくりよりも、昔の明連川を調べる学習に重点を置きました。

調べ学習のテーマ



昔の川遊び



昔、川にいた生き物



昔の河川風景

昔の明連川について学ぶことで、新たな河川整備のイメージが生まれるのではないかと考えました。

学ぶ・考える・まとめ伝えることを授業に取り込みました

Step 1

学ぶ

5月: 2回

第1回: 明連川の取り組み・ピオトープについて
第2回: 川について調べてみよう!

川の特徴・明連川の歴史や取り組み・ピオトープに関する理解を深める。

Step 2

考える

6月: 2回

第3回: 川について聞いてみよう!(質問票の準備)
第4回: 川について聞いてみよう!(昔の川の話を聞く)

昔の川の風景・生き物・川遊びから、整備イメージを考える。

Step 3

まとめる
伝える

7月: 2回

第5回: これまでの学習成果をまとめよう!
第6回: 川づくりの整備イメージを説明しよう!

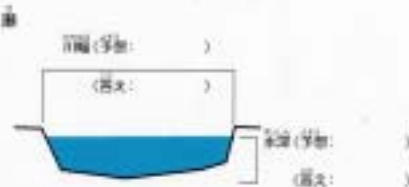
みんなで考えた川づくりの案を具体的に表現し、県の担当者に伝える。



興味がわく授業づくりの工夫(第2回)

川について調べてみよう!

瀬と淵の違いを実感してもらうため、瀬と淵の川幅・水深・流速・水温当てクイズを行い、子供達に予想を書いてもらった後で、実際に計測しました。



流速(予想:) (答え:)
水温(予想:) (答え:)



興味がわく授業づくりの工夫（第3・4回）

川について聞いてみよう！

第3回
昔の川に関する質問を考える



各家庭に持ち帰って家族に聞いてみる

第4回
お年寄りの話を聞く



明連川は昔、小俣川と呼ばれてました。

興味がわく授業づくりの工夫（第5回）

これまでの学習成果をまとめよう！

7月7日の七夕に、キャッチフレーズ・整備イメージづくりの授業を行い、川への想いを短冊に書いてもらい、ササの飾りつけをしました。



四季が楽しめる川にしたい

川のそばで遊ぶのが大好き
川の水をきれいにする
川の水をきれいにする
川の水をきれいにする
川の水をきれいにする

大人から子供まで
楽しめる川にしたい

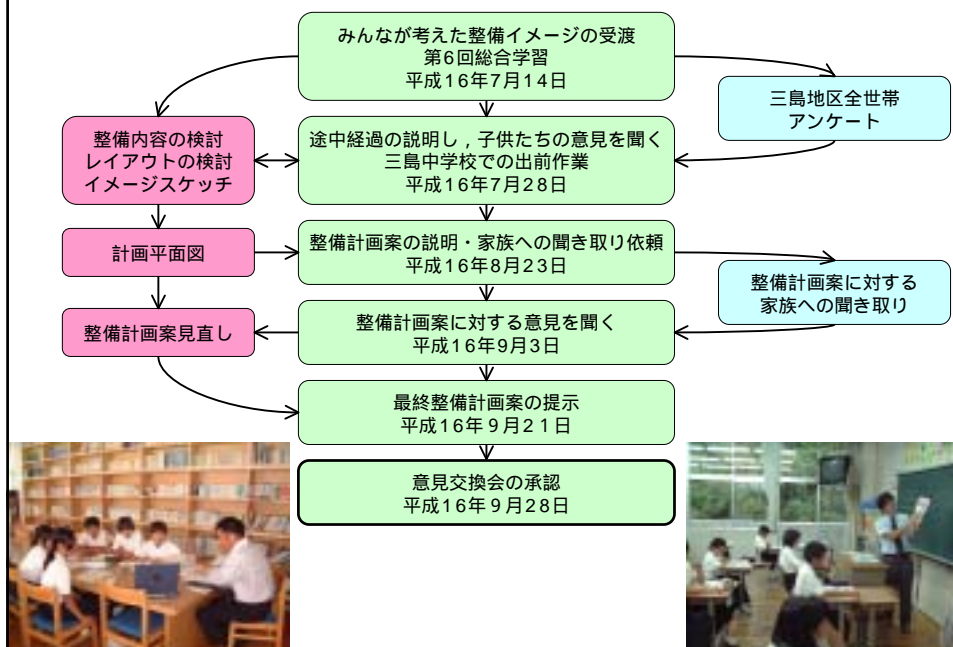
世界にただの川
はしまい

小さい子が遊んでいても
危なくはない川にしたい

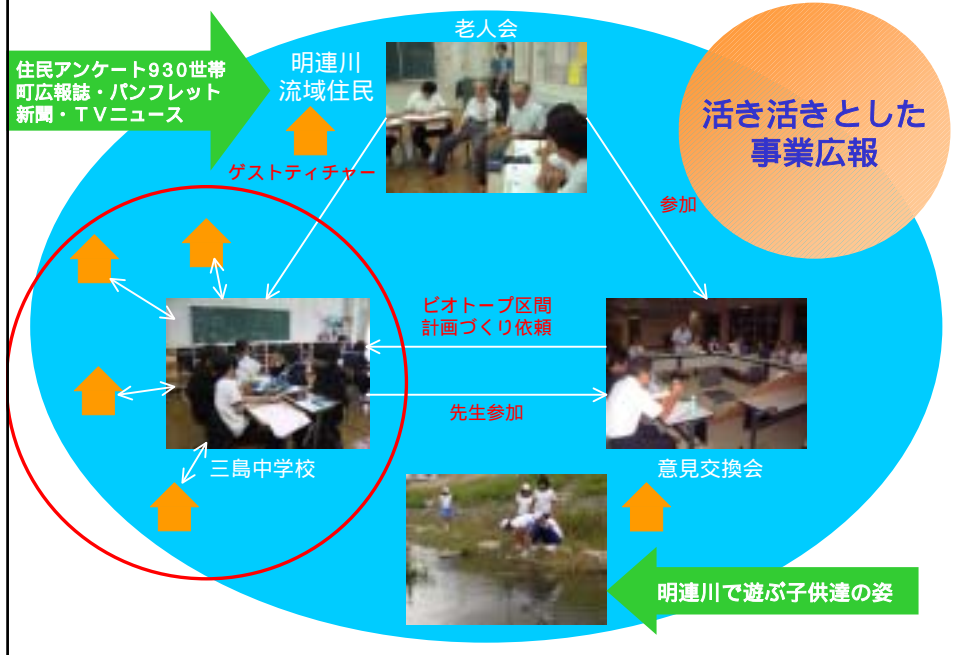
整備区間のキャッチフレーズ・整備イメージを設計仕様と考えました

項目	1班	2班	3班	4班
ビオトープ体験区間のキャッチフレーズ	人と自然が仲良くできる川	カエルや虫の合唱が聴こえる世界に一つだけの川	何才でも楽しく安全でいよされる川	生き物がたくさん住める川
想像した風景・場面について	大きな木の下にベンチをおく。	あさいとこでカエルなどが住みやすいようにする。	3才の子が楽しそうに水遊びをしている。	鳥たちが巣を作ったりえさを食べれる川。
	水草を入れて魚のすみかをつくる。	草むらをつくる。	5才くらいの子供が楽しそうにカブト虫やクワガタをとっている。	川の近くでスポーツのできる場所。
	橋をつくって上から川を見れるようにする。	川に橋をかける。夜でもわたれるように光をつける。	小学校の子が流されないぐらいの緩やかな川で泳いでいる。	川にきた人が楽しんで帰ってくれる川。
	においのある木や花を植える。	ベンチを設置する。	中学校のテストでわるい点をとってもこの川にきたら心が落ちつく川。	昔をなつかしく思い出せる川。
	外灯をつけたり通りやすくする。	サクラ、モミジ、キンモクセイなどの木をうる。	大人の人がすわって釣りしてたくさん魚が釣れている。	
	川の中に降りていける階段をつくる。	ひまわりなどの花をうえて、チョウチョなどがくるようにする。	お年寄りでもゆっくり休めるベンチがある。	
			川の水がすきとあっているのぞいたら魚が泳いでいるのが見える川。	

総合学習が終了した夏休みにも、設計過程の報告を行いました



合意形成という視点から見た総合学習の効果



これまでの取り組みの評価と反省点

総合学習との連携が実現したポイント

1 学年 1 クラスの小規模校
先生方との調整が図りやすかった。
学校サイドの理解
こちらからの提案を柔軟に受け入れて頂いた。

総合学習運営上の反省点

自分自身の話し方や表情が硬い
課題：技術者として表現能力の向上。
夏休みに入ってから取り組みがマンネリ気味

住民参加に関する今後の課題

子供達手づくりの情報発信
取り組んでみたいこと：総合学習によるグリーンマップづくり。
住民主体の参画体制づくり
広報 協議 参画